

鳥羽市総合教育会議 会議録

会議の名称	平成28年度第1回鳥羽市総合教育会議
開催日時	平成28年11月25日(金) 13:00～
開催場所	鳥羽市民文化会館 第3小会議室
議題	1. 鳥羽市の子どもたちの状況について 2. 小中学校統合計画の進捗について 3. その他
会議資料	桃取小学校の統合に関する経過等について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	市長 木田久主一、教育長 斎藤陽二、 教育委員 山下 隆広、岡村 忠夫、亀川 聖子、江崎 ユミ
欠席委員	なし
事務局	[鳥羽市総務課]寺田、奥村

開会・市長あいさつ

1. 鳥羽市の子どもたちの状況について

教育長より、鳥羽市の子どもたちの状況として、小中学校の学力調査の経年変化、スマホ・ケータイ利用の現状等を説明。

○教育長

鳥羽市の子どもたちの学力については、全国の正答率は下回るものの、経年で見ると改善されている教科も見られる。また、スマホ・ケータイの利用実態として、利用割合や利用時間が拡大している傾向にある。家庭学習をしている時間も少ない。こういったことについて、本日は協議したい。

○市長

スマホ・ケータイ利用についてのルールはあるのか。

○教育長

不必要なスマホ・ケータイは持たせない、フィルタリングをかける、家でルールを決め9時以降は使わせない、の3つを校長会や市P連、市教育委員会で推奨している。

○市長

ルールを守らせているかどうかのチェックはしているか。古いといわれるかもしれないが、以前は家に帰れば友人と連絡を取り合うこともなく、長い時間を家庭学習などに使えたが、今はスマホがあることでかえって時間を取られている。スマホ利用と学力低下には相関関係があるというデータもある。

○委員

子どもに守らせてほしいが、守らせる側の親がスマホでゲームをしているので、何も言えないということもある。保護者もこのことについてきちんと考えてほしい。

○市長

強制はできないが、スマホ利用と学力の相関関係が分かるガイドラインを作り、ご理解、御協力いただける方だけにでもきちんと訴えかけられるようにするというのはいいのでは。

○委員

強制はできないが、市P連等できちんと訴えかけたい。

○委員

市P連に来ていただいている保護者の方は、こういったことにご理解のある方が多いので、そこから保護者全体にいきわたるような取り組みが必要だと感じる。

○教育長

各単位PTAでそういったことを学ぶ契機となるよう、県の講師派遣制度の紹介なども行っている。

○委員

東中でそういう講座が開催されたが、参加した保護者は数名だったという現状である。弘道小ではノー

メディアデーという取組を行ったようで、みんなで楽しみながら時間を作るということで、よい反響だったと聞いている。そういった工夫も必要。

○委員

私たちの頃は、家で空き時間にラジオを聴いたり、本を読んだりして過ごしてきた。これがスマホにとって代わってきており、我々が推奨している読書時間の減少にもなっている。スマホでは味わえない面白さを子どもたちにわかるように提供していくことも重要。

○市長

宿題の量を増やし、スマホにかけている時間を取り返すことも考えてもよい。

2. 小中学校統合計画の進捗について

教育委員会総務課長より、小中学校統合計画の進捗についての経過報告があった。

○教育委員会総務課長

桃取小の保護者の思いとして、鳥羽小との統合自体については異論ないというスタンスであったが、それに関連して、朝の定期船の増便要望が強かった。定期航路事業全体を考慮すると対応はできないということをお示しし、なんとかご理解をいただいた。現在は閉校記念事業の調整や不安定の解消等を行っている。

その2年後の菅島小学校の統合計画については、反対意思が表明されている。答志中学校についても反対意思が強いが、学校を存続するための生徒数確保に向け、地元町内会で移住・定住等の推進に力を入れ始めていただいているところである。

○教育長

菅島の方々とのお話で、強制的にでも統合するののかという質問をいただく。統合計画は撤回できるものではないが、無理やり統合するというものではないとお答えしている。

○市長

現実的にもっと児童数が少なくなってきた、子どもの教育を根本から考えざるを得なくなってきたときには、統合に反対する保護者ばかりではなくなるように思う。鏡浦小学校の保護者がある時期から児童を他校に通わせだしたような例もある。そういう時期が来ても保護者の方々全員が今と同じスタンスであれば無理強いはできないし、統合計画も変更しないといけないかもしれないが、一定の人数の中で競いたい、団体競技の部活がしたいなどの考えを持つ保護者もでてくると思うので、意見交換は続ける必要がある。

○教育長

最初に話に行ったとき、中には統合やむなしという意見の方もいた。小規模のままでいるメリットはあるが、そのデメリットもきちんと伝えないといけないと考えている。

○委員

ひとりひとりの保護者の本音も聞けるような場づくりも考えないといけない。

○委員

島のまちづくりについても一緒に行政から提案してもらわないとという声もあった。

○委員

答志では自ら移住・定住を進めようとしており、そういう動きには協力したいという気持ちになる。また今、菅島では統合の話に拒否反応の状態になっていると思うので、委員としては住民と事務局との間のクッションとして、地域の声を聞いていければと思う。

○委員

鏡浦中の時には感情のもつれのようなものがあった。統合計画に該当する学校に計画の説明に行ったという時点であるので、もう少し児童生徒数が減ってきたときに重点的に説明に行くということはどうだろうか。

○委員

「間際になって来てどうだ」という人もいると思うので、なるべく定期的に意見交換したほうがよい気もする。

○委員

学校がなくなるから町が廃れるという人もいるが、本音は逆だと思っている。

○市長

水産業が弱くなり、若者がいなくなり、その結果として子供がいなくなり、現状を招いていると思う。またすべての島で移住・定住をどんどん進めるということも現実的には難しいと思う。私たちはまちづくりも考えなければいけないが、差し迫っている子供たちの教育環境にも比重を置かねばならない。まち全体の話聞くのも必要だが、保護者の方々の話を聞き、こちらの考えもきちんと伝えていくことが大事だと思う。

3. その他

意見交換の内容は以下の通り。

○教育委員会より要望

- ・普通学級に支援員の配置をお願いします。
- ・学校図書館を整備する人員やボランティアの派遣をお願いします。
- ・高校生の通学費補助について、すべての生徒に対応できるように、現状の申請方法の変更を検討するので、対応をお願いします。

事務局より今年度の会議予定の説明があり、会議を終了した。